令和２年度　第３回　学校運営協議会　議事録

令和３年２月１９日（金）　15：30～17：00　校長室
出席委員：６人中５人　　事務局出席：校長、事務部長、教頭等全５人

１．校長挨拶
２．会長挨拶
３．報告　　学校説明会等実施状況について
４、協議
＜「令和２年度学校評価」についての意見等＞
・生徒向け学校教育自己診断で「部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばす」81.6%と5.1%上昇したのはなぜか。
　⇒新型コロナ感染症対策でキャプテン会議などが多く。キャプテンから部員への情報伝達の流れができたからではないか。教員が指導をし過ぎるのではなく、できるだけ生徒が主体的に参画するなど、さらに自治会活動を活性化させたい。
・大学でも、個人からチームへと教員集団組織マネージメントが変化してきている。コミュニケーションを増やし、常に生徒の情報交換をしている。先生方が個々に抱え込まないように、何かあれば周りが助けてくれる雰囲気が必要。４月からのリモート授業でスラックというアプリを導入し、ラインのチャット機能も活用して、重要な事務連絡も行っている。
・「教員の同僚性を高め、協力して教育活動を行っている」が８ポイント下降していることについて、教員でビジョンワークをしてみてはどうか。
　⇒ビジョンワーク等ができるように職員会議を 20 分間程度早く終わって実施してみたいと考えている。
・どうして、共通テストや評価方法の変更が求められたか。そこが学校でも理解できていないと改革はできない。生きる力を試されている。マークシート方式と異なるレポート課題も大学では出している。
　⇒観点別学習状況の評価で、知識・技能が重視されている現状から、３観点の割合が１：１：１となることにより先生方のスタンスも変わる必要がある。大きな時代の変革期になる。
・学力向上について、４分の１の生徒が満足していない。このことを真剣に考える必要がある。生徒に伝えることを変える必要がある。教室についているプロジェクターを利用している先生と利用しない先生の違いが大きい。
・語学研修で海外に行けない今こそ読書をしてはどうか。今回、共通テストにおける国語の成績が伸びているのは、読書量が増えていることが一因か調べてみてはどうか。
　⇒週３回小テストをしているが、朝読を組み込むことにより外の世界を知ることがで

きるとも考えている。
・大学におけるリモート授業でのレポート課題で、「分かち書き」、つまり基本的な文章の書き方が分かっていない学生がいる。長い文章の書き方が身についていない。
・今回の共通テストを振り返ってみると、生徒自身がノートの取り方を工夫していく必要がある。自分で順序立てて考えることのできる生徒は、センター試験から共通テストに代わっても成績をとれている。
・大学では、プリントを配付し、必要なことをメモさせるようにしている。
⇒教師の板書を写すのが勉強だと思っている生徒が多い。
・コース制において、スタンダードコースとアドバンストコースの差がなくなっているのはなぜか。
⇒両コースの本来の目的が生徒の意識とずれている。１年次から指定校を狙うために成績が取りやすいスタンダードを希望する生徒がいる。キャリアガイダンスを充実していく必要がある。
・１年で自分の可能性を知る機会を増やすことが重要。中学時代、塾で「この高校は指定校推薦枠がある」と言われ、それをめざして入学してくることもある。本校の学校説明会で、大学の指定校推薦について質問をしてくる保護者も多い。
⇒卒業生の話を聞くなどして可能性を知る機会を増やすこともよいのでは。
・指定校で大学に入学した生徒は、成績が伸びにくく、就職で苦労する場合もある。
・10 年位前に、ある高校で保育園実習を行ったことによりコミュニケーション能力が上がった。教育効果があり、生徒の人格形成に役立った。人間形成のため、地域でのボランティアとの係わりを持ってはどうか。
・避難訓練での地域連携に関して、司馬遼太郎記念館では、毎年１回ボランティアと避難訓練をしている。
・ある小学校でも、地域の工業高校と合同で避難訓練をしている。とても良いことだと思う。

＜「令和３年度学校経営計画」について＞
委員から特に意見もなくご承認いただいた。